



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターンシップと就職に関する大学アンケート調査結果報告書 (Ver.1) : インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究
Author(s)	亀野, 淳
Description	本報告書は科学研究費補助金『インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究』（基盤研究B、研究代表：亀野淳（北海道大学・高等教育推進機構・准教授）、課題番号22330225）の研究成果の一部を取りまとめたものです。
Issue Date	2016-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/71925
Type	research report
File Information	aigaku_Ver1_1.pdf



インターンシップなど産学連携教育を通じた 学校から社会への移行システムに関する研究

インターンシップと就職に関する大学アンケート 調査結果報告書 (Ver. 1)

2016 年 8 月

北海道大学 高等教育推進機構

准教授 亀野 淳

目 次

I. 調査目的	1
II. 調査実施の概要	1
III. 調査結果	
1. インターンシップ実施体制と実施状況	2
2. インターンシップやアルバイトと就職の関係	5
2.1 インターンシップ参加学生の就職先の把握	5
2.2 インターンシップ参加学生の採用の依頼（大学側からの依頼）の有無	5
2.3 インターンシップ企業から就職の依頼（企業側からの依頼）の有無の有無	6
2.4 インターンシップ企業への学生の就職の有無	8
3. インターンシップと就職を結びつけることに対する考え方	10
3.1 基本的考え方（賛否）	10
3.2 課題	12
調査依頼状（学部）	15
調査依頼状（大学）	17
調査票（学部）	19
調査票（大学）	25

I. 調査目的

日本で実施されている「インターンシップ」は就職・採用活動と切り離されて実施されているケースが大半であるが、今後のインターンシップの充実や就職・採用活動のあり方の見直しに当たっては、その関連性について検討すべきであるとの意見もある。このため、インターンシップと就職に関する大学の実態、考え方を把握するため、アンケート調査を実施した。

具体的な調査項目は、以下のとおりである。

1. 「インターンシップ・実習」の実施体制と実施状況
2. 「インターンシップ・実習」と就職の関係
3. 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方
4. 学生の就職状況
5. 大学・学部の属性

II. 調査実施の概要

調査対象は、大学全体については、医師養成系のみの大学を除く 441 大学を、学部については、医師養成学部を除く 2041 学部とした。ただし、単科大学については、各学部の対象とした。

調査時期は 2013 年 1 月、上記調査対象者に直接、依頼文書と調査票を郵送し、回答はすべて Web により実施した。なお、回答にあたって、大学、学部の名称の記載については任意とした。

有効回答数は、大学 185（有効回答率 42.0%）、学部 441（同 21.6%）であった。

Ⅲ. 調査結果

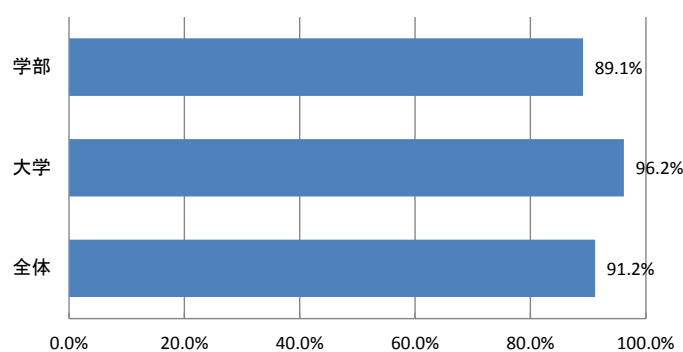
1. インターンシップ実施体制と実施状況

1.1 インターンシップ実施の有無

9割程度の大学・学部で「インターンシップ・実習」が実施されている（図表 1-1-1）。

設置主体別では、ほとんど差はみられない。学部別では理学がやや低いもののほとんどが9割前後である。規模別では、学部規模では人数が少ない学部でやや実施割合が低くなっている（図表 1-1-2）。

図表1-1-1 インターンシップ実施割合



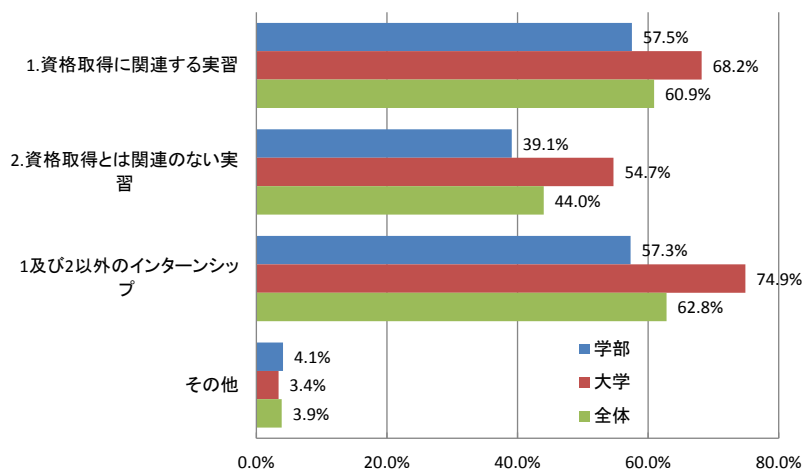
図表1-1-2 インターンシップ実施割合（設置主体別、学部別、規模別）

設置主体別	
国立大学	89.2%
公立大学	93.3%
私立大学	91.8%
学部別	
人文科学	91.9%
社会科学	92.8%
理学	80.0%
工学	88.7%
農学	86.7%
保健（医・歯学を除く）	84.7%
教育	93.9%
芸術	86.7%
学部学生数別	
1-150	84.0%
151-300	87.8%
300-	94.9%
大学全体学生数別	
1-500	93.1%
501-2000	98.0%
2001-	96.2%

1.2 実施内容

約6割の大学・学部で「1.資格取得に関連する実習」を実施している。また、約4割で「2.資格取得とは関連のない実習」を実施している。さらに、これら以外のインターンシップでは7割弱で実施している（図表1-2）。

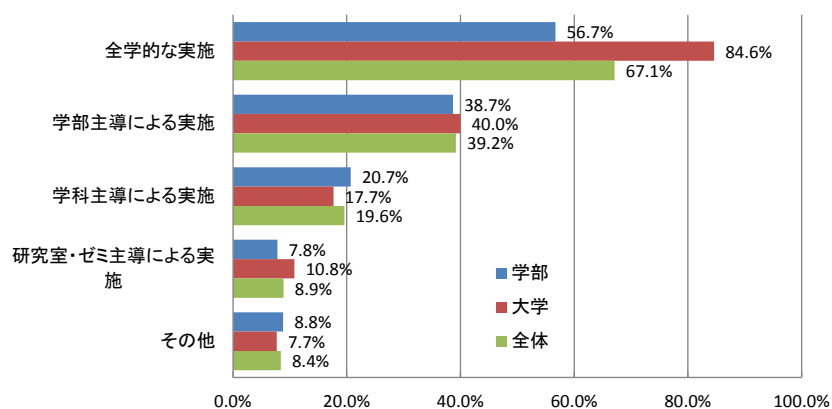
図表1-2 インターンシップの実施内容



1.3 実施主体

全体では、「全学的に実施」が約3分の2、「学部主導で実施」が約4割となっている。大学と学部別では、大学では、「全学的に実施」が約85%と学部比べて高くなっているが、その他については、差はみられない（図表1-3）。

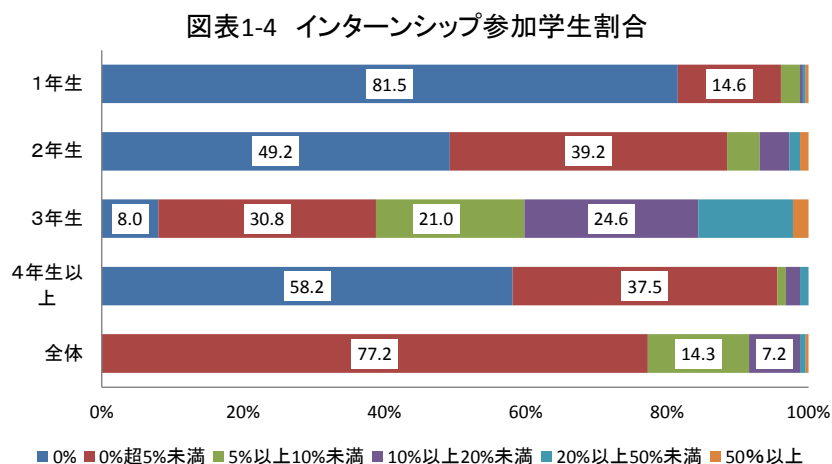
図表1-3 インターンシップの実施主体



1.4 参加学生数

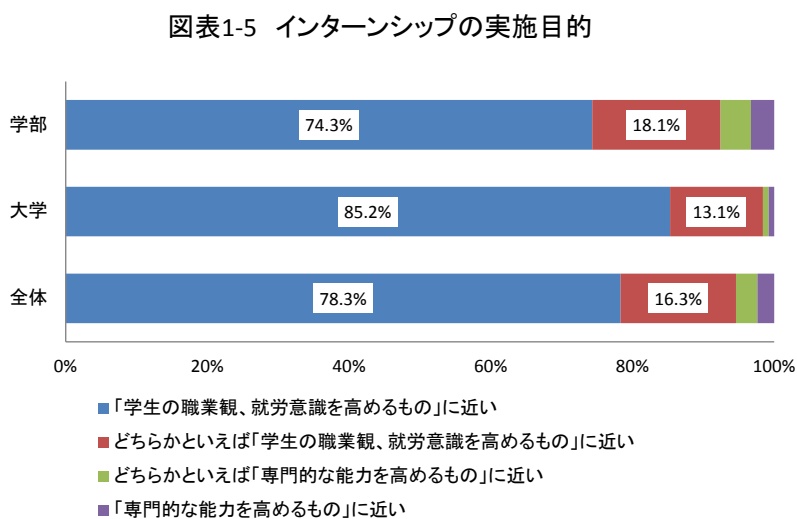
参加学生数を在籍学生数で割った参加学生割合でみると、全学年では、「0～5 %」が約8割を占めている。

学年別では、3年生の参加が多くなっているが、それでも「0～5 %」が約3割を占めている（図表 1-4）。



1.5 実施目的

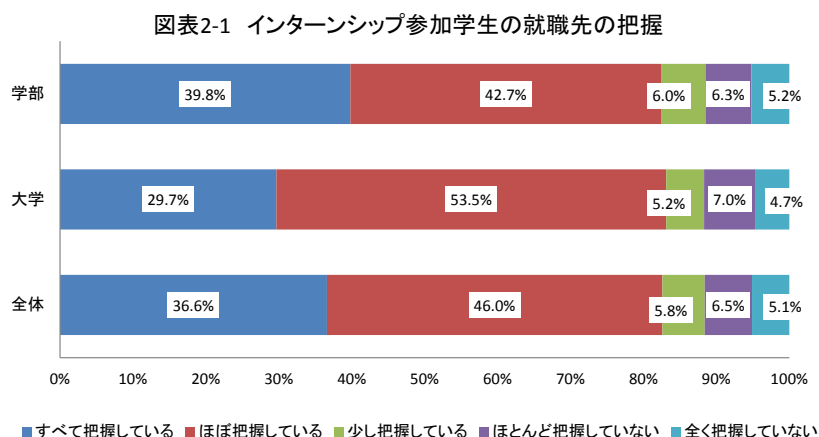
「学生の職業観、就労意識を高めるもの」が8割程度を占めており、これに「どちらかといえば学生の職業観、就労意識を高めるものに近い」を加えると、ほとんどが学生の職業観、就労意識を高めるためにインターンシップを実施しているといえる（図表 1-5）。



2. インターンシップやアルバイトと就職の関係

2.1 インターンシップ参加学生の就職先の把握

「すべて把握している」が4割弱となっており、これに「ほぼ把握している」を加えると、8割以上となる（図表 2-1）。



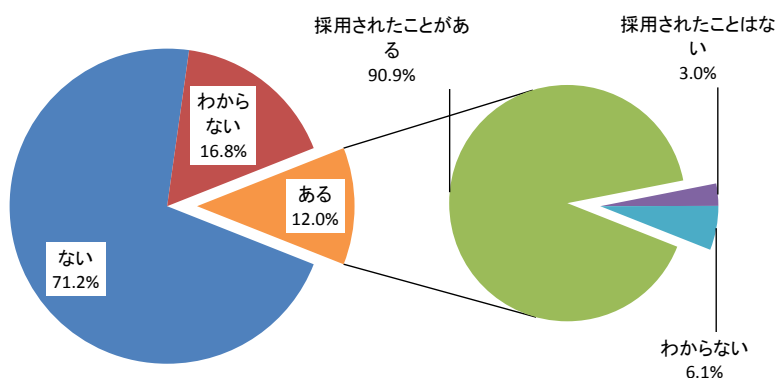
2.2 インターンシップ参加学生の採用の依頼（大学側からの依頼）の有無

大学側から依頼したことが「ある」は1割程度にとどまっている。しかし、そのうち、依頼したことがある大学・学部では、「採用されたことがある」が約9割となっている（図表 2-2-1）。

設置主体別にみると、私立大学では国立大学や公立大学に比べその割合はやや高くなっている。学部別にみると、芸術で約3割と他の学部と比べると高くなっているのが特徴的である。規模別にみると、大学では規模が小さいほどその割合が高くなっている（図表 2-2-2）。

「当該学生がその実習先への就職を希望したから」が約7割と最も多くなっている（図表 2-2-3）。

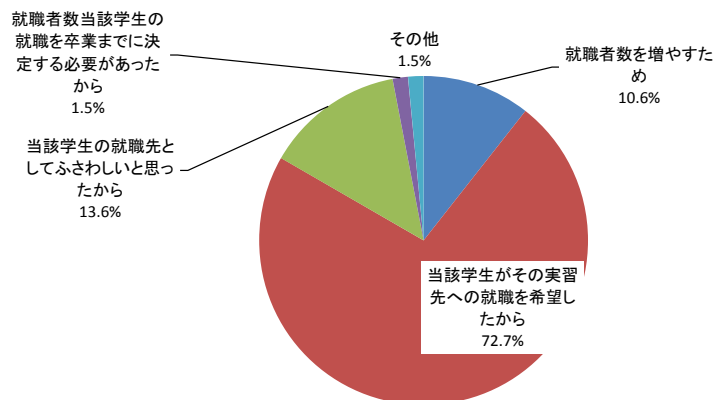
図表2-2-1 インターンシップ参加学生の採用の依頼（大学側からの依頼）の有無と採用の有無



図表2-2-2 インターンシップ参加学生の採用の依頼(大学側からの依頼)の有無(学部・大学別、設置主体別、学部別、規模別)

	ある	ない	わからない
学部・大学別			
学部	10.6%	71.6%	17.8%
大学	15.1%	70.3%	14.5%
設置主体別			
国立大学	6.4%	70.9%	22.7%
公立大学	7.1%	66.1%	26.8%
私立大学	15.9%	72.4%	11.6%
学部別			
人文科学	15.8%	73.7%	10.5%
社会科学	11.1%	75.6%	13.3%
理学	0.0%	81.3%	18.8%
工学	12.8%	61.7%	25.5%
農学	0.0%	53.8%	46.2%
保健(医・歯学を除く)	9.8%	75.4%	14.8%
教育	9.7%	71.0%	19.4%
芸術	30.8%	46.2%	23.1%
学部学生数別			
1-150	9.5%	73.0%	17.5%
151-300	11.9%	73.5%	14.6%
300-	9.0%	71.2%	19.8%
大学全体学生数別			
1-500	18.5%	68.5%	13.0%
501-2000	14.6%	72.9%	12.5%
2001-	12.0%	72.0%	16.0%

図表2-2-3 インターンシップ参加学生の採用の依頼(大学側からの依頼)の理由

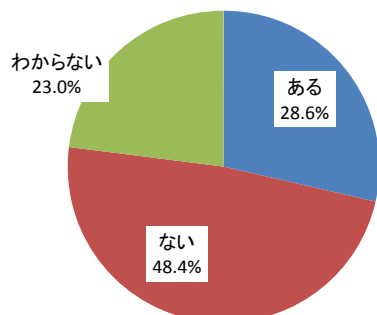


2.3 インターンシップ企業から就職の依頼(企業側からの依頼)の有無

企業側から依頼されたことが「ある」と回答した大学・学部は約3割である(図表2-3-1)。

これを設置主体別にみると、私立大学で高く、国立大学で低くなっている。学部別では、保健(医・歯学を除く)で4割を超え最も高くなっており、次いで、芸術、人文科学が高くなっている。規模別では、学部、大学とも小規模で高くなっている(図表2-3-2)。

図表2-3-1 インターンシップ企業から就職の依頼（企業側からの依頼）の有無



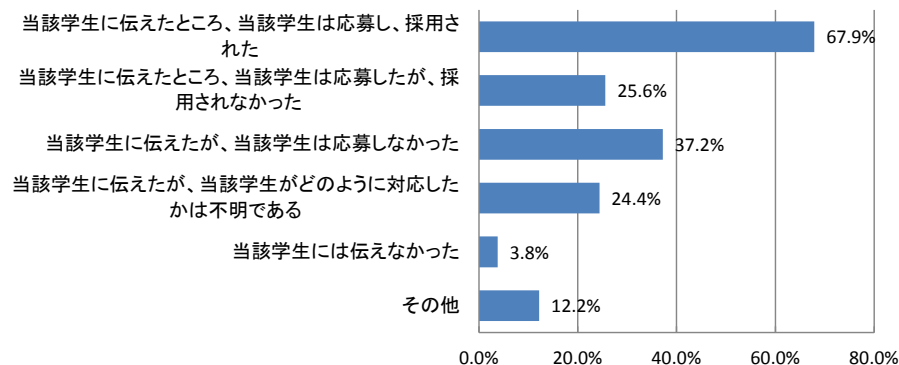
図表2-3-2 インターンシップ企業から就職の依頼（企業側からの依頼）の有無（学部・大学別、設置主体別、学部別、規模別）

	ある	ない	わからない
学部・大学別			
学部	28.7%	48.1%	23.1%
大学全体	28.5%	48.8%	22.7%
設置主体別			
国立大学	12.8%	55.3%	31.9%
公立大学	33.9%	41.1%	25.0%
私立大学	36.5%	46.2%	17.3%
学部別			
人文科学	29.8%	52.6%	17.5%
社会科学	24.4%	55.6%	20.0%
理学	6.3%	50.0%	43.8%
工学	25.5%	40.4%	34.0%
農学	15.4%	23.1%	61.5%
保健（医・歯学を除く）	44.3%	42.6%	13.1%
教育	22.6%	58.1%	19.4%
芸術	30.8%	46.2%	23.1%
学部学生数別			
1-150	41.3%	47.6%	11.1%
151-300	26.5%	49.7%	23.8%
300-	26.1%	45.0%	28.8%
大学全体学生数別			
1-500	37.0%	50.0%	13.0%
501-2000	25.0%	47.9%	27.1%
2001-	26.0%	52.0%	22.0%

2.3.1 対応と結果

「当該学生に伝えたところ、当該学生は応募し、採用された」が最も多く約3分の2となっている。次いで、「当該学生に伝えたが、当該学生は応募しなかった」となっている（図表2-3-3）。

図表2-3-3 インターンシップ企業から就職の依頼（企業側からの依頼）への対応と結果

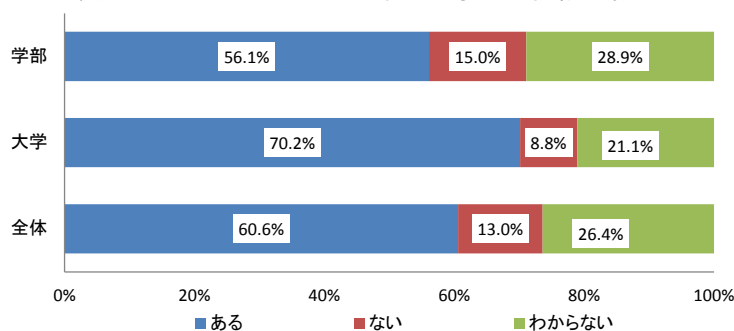


2.4 インターンシップ企業への学生の就職の有無

約6割の大学・学部が「ある」と回答している（図表2-4-1）。

設置主体別にみると、私立大学、公立大学では約7割であるが、国立大学では4割と低くなっている。学部別では、「保健（医・歯学を除く）」が約8割と最も高く、次いで、「人文科学」「工学」「社会科学」となっている。規模別では、学部ではあまり差はみられないが、大学では小規模の方がその割合は高くなっている（図表2-4-2）。

図表2-4-1 インターンシップ企業への学生の就職の有無

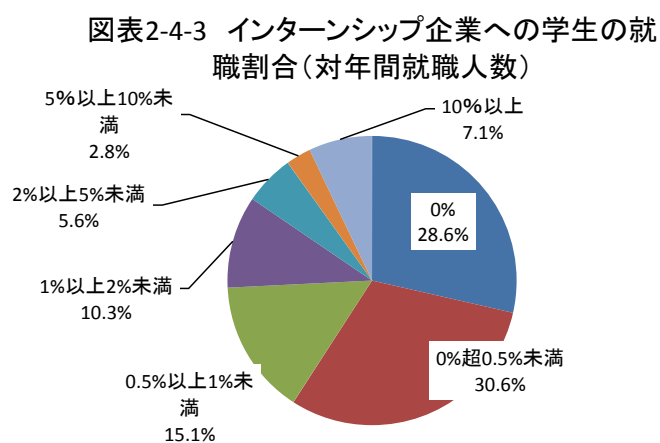


図表2-4-2 インターンシップ企業への学生の就職の有無(学部・大学別、設置主体別、学部別、規模別)

	ある	ない	わからない
学部・大学別			
学部	28.7%	48.1%	23.1%
大学全体	28.5%	48.8%	22.7%
設置主体別			
国立大学	12.8%	55.3%	31.9%
公立大学	33.9%	41.1%	25.0%
私立大学	36.5%	46.2%	17.3%
学部別			
人文科学	29.8%	52.6%	17.5%
社会科学	24.4%	55.6%	20.0%
理学	6.3%	50.0%	43.8%
工学	25.5%	40.4%	34.0%
農学	15.4%	23.1%	61.5%
保健(医・歯学を除く)	44.3%	42.6%	13.1%
教育	22.6%	58.1%	19.4%
芸術	30.8%	46.2%	23.1%
学部学生数別			
1-150	41.3%	47.6%	11.1%
151-300	26.5%	49.7%	23.8%
300-	26.1%	45.0%	28.8%
大学全体学生数別			
1-500	37.0%	50.0%	13.0%
501-2000	25.0%	47.9%	27.1%
2001-	26.0%	52.0%	22.0%

2.4.1 人数

インターンシップ企業への就職した学生数を年間の就職者数で割った比率でみると、「0～5%」が約3割、「0%」が3割弱になっているが、「10%」以上という学部・大学も7%ある(図表2-4-3)。



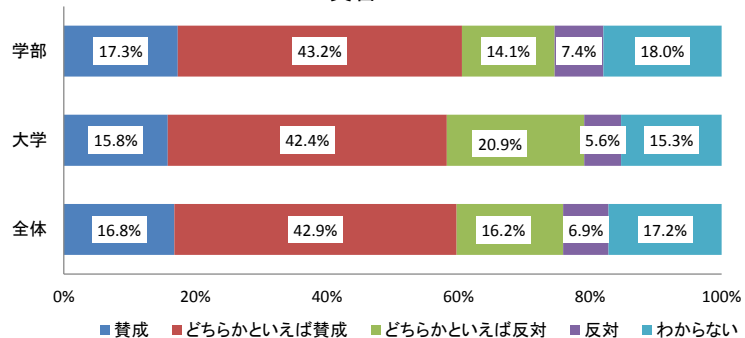
3. インターンシップと就職を結びつけることに対する考え方

3.1 基本的考え方（賛否）

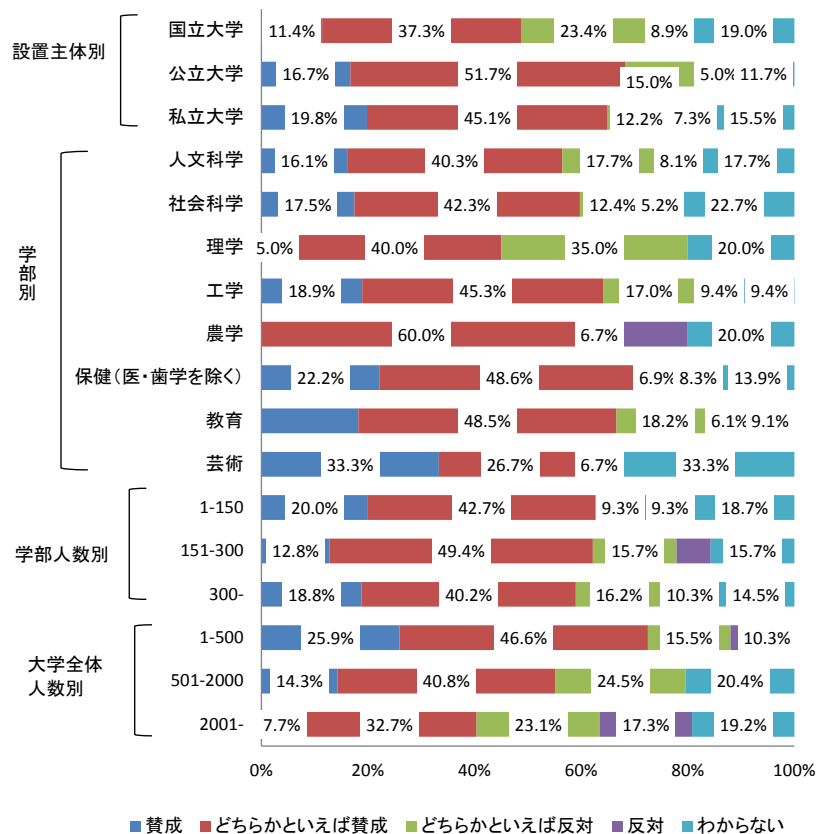
全体では「賛成」が2割弱、「どちらかといえば賛成」も合わせると約6割となっている。この傾向は大学・学部別にみても同様である（図表3-1-1）。

設置主体別にみると、「国立大学」で「賛成」「どちらかといえば賛成」が少なくなっている。学部別にみると、「理学」「農学」で「賛成」が少なくなっている。規模別にみると、学部の規模では明確な差はみられないが、大学の規模では、規模が大きくなるにつれて「賛成」「どちらかといえば賛成」が少なくなっている（図表3-1-2）。

図表3-1-1 インターンシップと就職を結びつけることに対する賛否



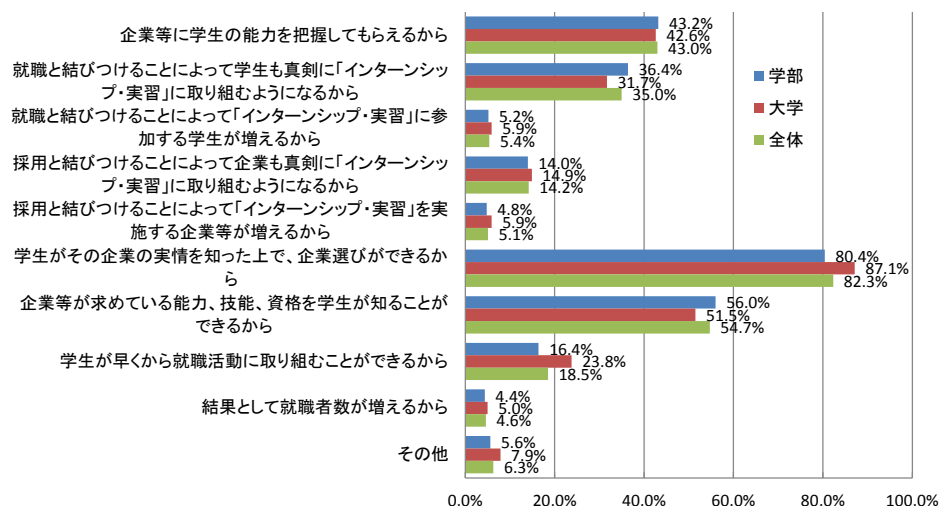
図表3-1-2 インターンシップと就職を結びつけることに対する賛否（設置主体別、学部別、規模別）



3.1.1 賛成理由

「学生がその企業の実情を知った上で、企業選びができるから」が最も多く8割を超える大学・学部が賛成理由としてあげている。次いで、「企業等が求めている能力、技能、資格を学生が知ることができるから」「企業等に学生の能力を把握してもらえるから」が多くなっている（図表 3-1-3）。

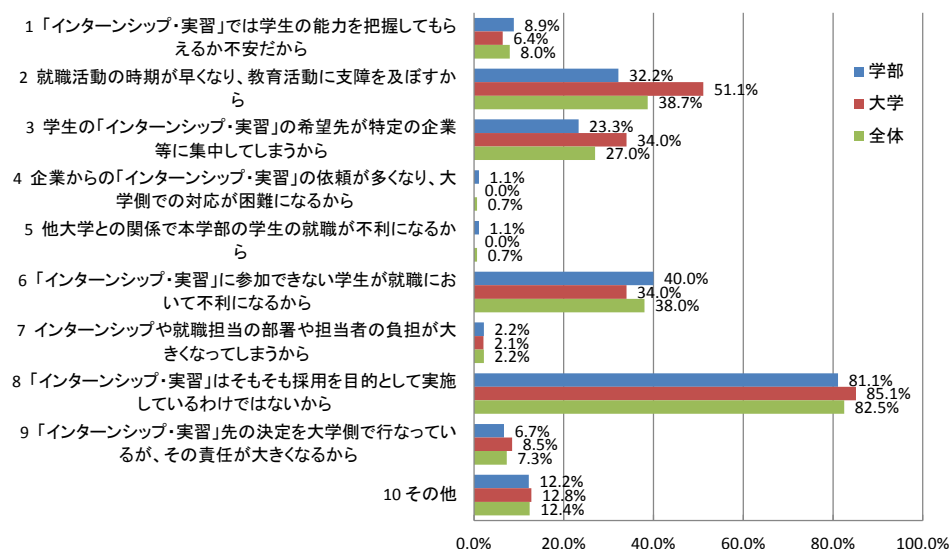
図表3-1-3 インターンシップと就職を結びつけることに対する賛成理由



3.1.2 反対理由

「「インターンシップ・実習」はそもそも採用を目的として実施しているわけではないから」が最も多く8割を超える大学・学部が反対理由としてあげている。次いで、「就職活動の時期が早くなり、教育活動に支障を及ぼすから」「「インターンシップ・実習」に参加できない学生が就職において不利になるから」が多くなっている（図表 3-1-4）。

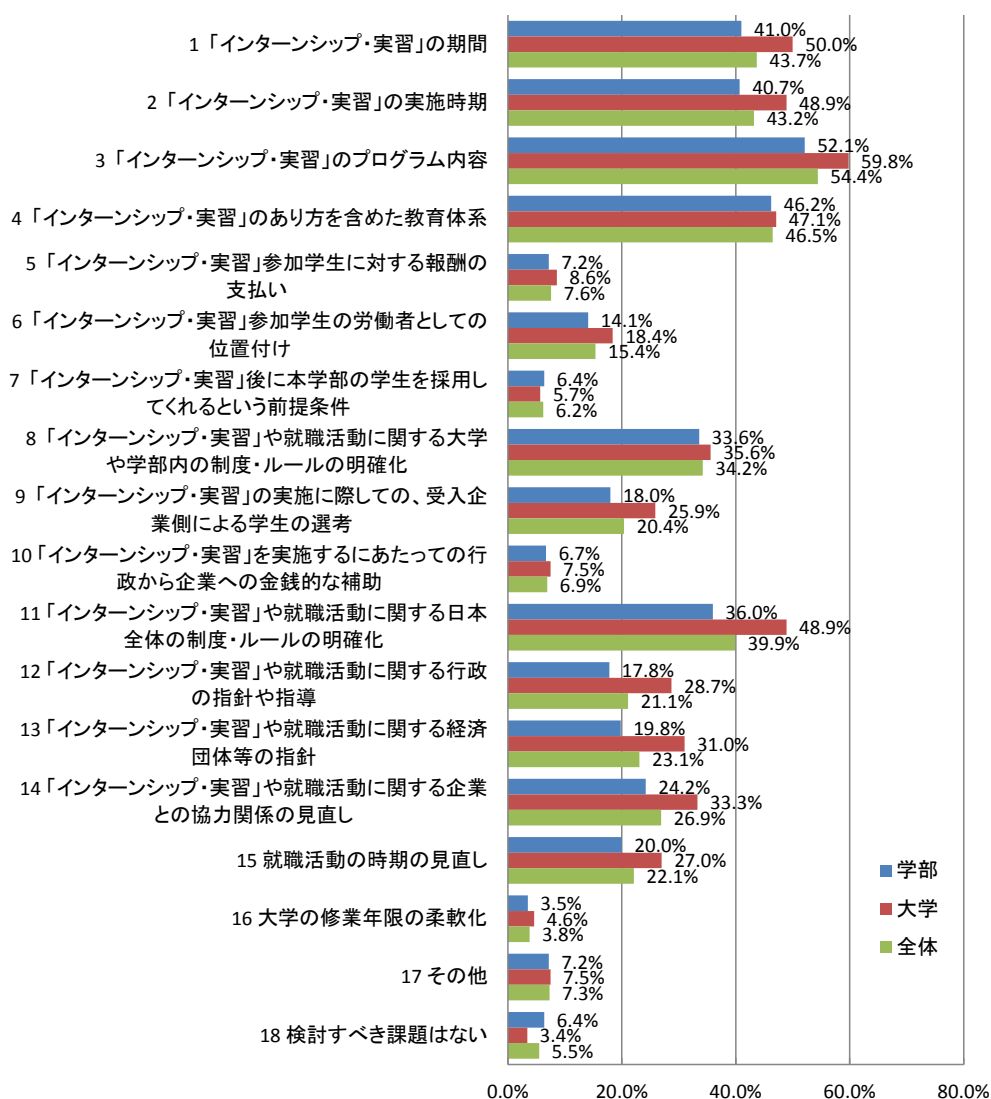
図表3-1-4 インターンシップと就職を結びつけることに対する反対理由



3.2 課題

「インターンシップ・実習」のプログラム内容」が最も多く半数以上の大学・学部が課題としてあげている。次いで、「インターンシップ・実習」のあり方を含めた教育体系」「インターンシップ・実習」の期間」「インターンシップ・実習」の実施時期」「インターンシップ・実習」や就職活動に関する日本全体の制度・ルール of 明確化」などが4割程度の大学・学部が課題としてあげている（図表 3-2-1）。

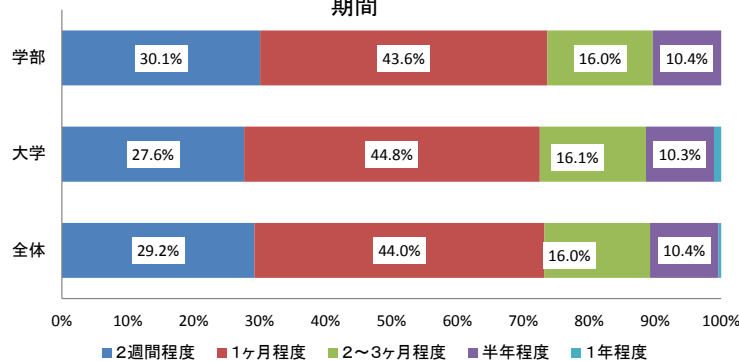
図表3-2-1 インターンシップと就職を結びつける上での課題



3.2.1 必要な期間

「1ヶ月程度」が4割を超えており、次いで、「2週間程度」となっているが、「2～3ヶ月程度」を超える回答もあわせて3割近くある（図表3-2-2）。

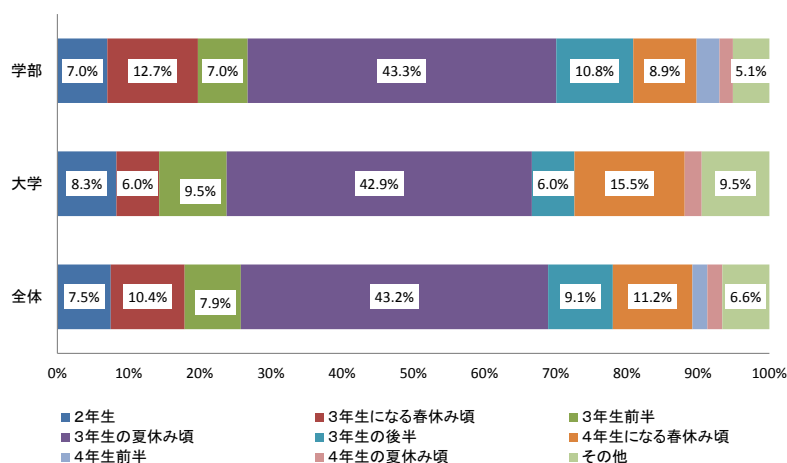
図表3-2-2 インターンシップと就職を結びつける上での必要な期間



3.2.2 適切な時期

「3年生の夏休み頃」が最も多く4割を超えている。次いで、「4年生になる春休み頃」であるが、1割程度の回答である（図表3-2-3）。

図表3-2-3 インターンシップと就職を結びつける上での適切な時期



2013 年 1 月

各大学学部
就職支援・インターンシップ担当教職員 様

北海道大学 高等教育推進機構
准教授 亀 野 淳

「インターンシップと就職との関連に関するアンケート調査」のお願い

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本で実施されている「インターンシップ」は就職・採用活動と切り離されて実施されているケースが大半ですが、今後のインターンシップの充実や就職・採用活動のあり方の見直しに当たっては、その関連性について検討すべきであるとの意見もあります。

このため、文部科学省より科学研究費補助金『**インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究**』（基盤研究B、研究代表：亀野淳（北海道大学・高等教育推進機構・准教授）、課題番号 22330225）を受け、検討を進めておりますが、今般、インターンシップと就職に関する企業や大学の実態、考え方を把握するため、アンケート調査を実施することとしました。

本研究メンバーは裏面のとおりですが、すべて日本インターンシップ学会の会員であり、同学会の協力も得て本研究を実施しております。

本アンケート調査ではインターンシップや採用活動の現状、インターンシップと採用を結びつけることの方考え方などについてお聞きするものです。

具体的な調査項目は、以下のとおりです。

1. 「インターンシップ・実習」の実施体制と実施状況
2. 「インターンシップ・実習」と就職の関係
3. 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方
4. 学生の就職状況
5. 貴学部の属性

本アンケート調査における質問項目は同封いたしました「アンケート調査票(質問項目)」のとおりとなっておりますが、回答につきましては、裏面のご留意の上、すべて Web 上でお願いいたします。

新年の大変お忙しい時にお手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

お問合せ先

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部
准教授 亀野 淳 (Jun KAMENO)

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

Tel&Fax 011-706-6928 (直通)

E-Mail jkamen@high.hokudai.ac.jp

本研究 Web Site <http://is-research.high.hokudai.ac.jp/>

【回答に際しての留意点】

調査実施 Web サイト <http://is-research.high.hokudai.ac.jp/survey/faculty/>
(または、<http://is-research.high.hokudai.ac.jp/>にアクセスし、
右下のアンケート、**大学学部向け**をクリック)

回答 ID : [ID] 回答パスワード : [password]

1. 上記 Web サイトにアクセスの上、回答 ID、回答パスワードをご入力願います。
2. ご入力内容は SSL 暗号化通信により暗号化されて送信されます。
3. 貴学部の現状及び考え方についてお答えください。なお、貴大学全体の就職・インターンシップ部署には、ほぼ同内容のアンケート調査依頼をお送りしていますので、ここでは、貴学部のことについてお答え下さい。ただし、貴学部のみ大学（いわゆる単科大学）については本調査のみとなっております。また、現行の学部をもとに調査依頼を行っていますが、学部等の組織改変により卒業生等がまだ出ていない場合は、可能な範囲内でかまいませんので、改変前の状況を記載していただければ幸いです。
4. 「インターンシップ」については、一般的には「生徒・学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義され、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものは対象外とされていますが、本アンケート調査では、特に断りのない限り、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものも対象とし、「インターンシップ・実習」という用語を用います。
5. 回答には 15 分ほどお時間をいただきますが、まとまった回答時間が取れない場合は、回答の途中で内容を保存し、日時を改めて回答を再開していただくことができるようになっております。全体の設問数は計 27 問ですが、回答内容によっては回答の必要のない設問もございます（自動的に表示されないようになっています）ので、実際の回答数はその半数～7 割程度になります。
6. いただいたご回答はすべて統計的に処理をし、その結果を学術的に分析の上、公開いたします。しかし、特定の大学・学部名やその回答内容を公開することはありません。
7. **2013 年 1 月 25 日（金）**までにご回答をいただきますようお願い申し上げます。
8. ご不明な点などがございましたら、表面の問合せ先までご連絡願います。

[研究メンバー]

亀野 淳	北海道大学・高等教育推進機構・准教授（研究代表者）
稲永 由紀	筑波大学・大学研究センター・講師
牛山佳菜代	目白大学・社会学部・准教授
江藤智佐子	久留米大学・文学部・講師
大久保貴司	北海道江別高等学校・教諭
古閑 博美	嘉悦大学・ビジネス創造学部・教授
小林 純	札幌国際大学短期大学部・講師
沢田 隆	札幌国際大学・スポーツ人間学部・教授
高橋 秀幸	北海道武蔵女子短期大学・教養学科・准教授
田崎 悦子	大阪教育大学・キャリア支援センター・特任准教授
立石 和子	北海道文教大学・人間科学部・准教授
椿 明美	札幌国際大学短期大学部・教授
徳井美智代	北海道大学大学院・教育学研究科・博士後期課程
長尾 博暢	鳥取大学・大学教育支援機構・准教授
真鍋 和博	北九州市立大学・基盤教育センター・准教授
吉本 圭一	九州大学大学院・人間環境学研究院・教授
和田 佳子	札幌大谷大学・社会学部・教授

2013 年 1 月

各大学

就職支援・インターンシップ担当部署 御中

北海道大学 高等教育推進機構

准教授 亀 野 淳

「インターンシップと就職との関連に関するアンケート調査」のお願い

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本で実施されている「インターンシップ」は就職・採用活動と切り離されて実施されているケースが大半ですが、今後のインターンシップの充実や就職・採用活動のあり方の見直しに当たっては、その関連性について検討すべきであるとの意見もあります。

このため、文部科学省より科学研究費補助金『**インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究**』（基盤研究B、研究代表：亀野淳（北海道大学・高等教育推進機構・准教授）、課題番号 22330225）を受け、検討を進めておりますが、今般、インターンシップと就職に関する企業や大学の実態、考え方を把握するため、アンケート調査を実施することとしました。

本研究メンバーは裏面のとおりですが、すべて日本インターンシップ学会の会員であり、同学会の協力も得て本研究を実施しております。

本アンケート調査ではインターンシップや採用活動の現状、インターンシップと採用を結びつけることの考え方などについてお聞きするものです。

具体的な調査項目は、以下のとおりです。

1. 「インターンシップ・実習」の実施体制と実施状況
2. 「インターンシップ・実習」と就職の関係
3. 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方
4. 学生の就職状況
5. 貴大学の属性

本アンケート調査における質問項目は同封いたしました「アンケート調査票(質問項目)」のとおりになっておりますが、回答につきましては、裏面のご留意の上、すべて Web 上でお願いいたします。

新年の大変お忙しい時にお手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

お問合せ先

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部

准教授 亀野 淳 (Jun KAMENO)

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

Tel&Fax 011-706-6928 (直通)

E-Mail jkameno@high.hokudai.ac.jp

本研究 Web Site <http://is-research.high.hokudai.ac.jp/>

【回答に際しての留意点】

調査実施 Web サイト <http://is-research.high.hokudai.ac.jp/survey/university>
(または、<http://is-research.high.hokudai.ac.jp/>にアクセスし、
右下のアンケート、**大学全体向け**をクリック)

回答 ID : [ID] 回答パスワード : [password]

1. 上記 Web サイトにアクセスの上、回答 ID、回答パスワードをご入力願います。
2. ご入力内容は SSL 暗号化通信により暗号化されて送信されます。
3. 貴大学全体の現状及び考え方についてお答えください。なお、貴大学の各学部には、ほぼ同内容のアンケート調査依頼をお送りしていますので、ここでは、貴大学全体のことについてお答え下さい。ご回答に際しましてはそれぞれの質問に回答方法の指示がありますので、その指示にしたがってご回答ください。
4. 「インターンシップ」については、一般的には「生徒・学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義され、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものは対象外とされていますが、本アンケート調査では、特に断りのない限り、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものも対象とし、「インターンシップ・実習」という用語を用います。
5. 回答には 15 分程度お時間をいただきますが、まとまった回答時間が取れない場合は、回答の途中で内容を保存し、日時を改めて回答を再開していただくことができるようになっております。また、全体の設問数は計 26 問ですが、回答内容によっては回答の必要のない設問もございます（自動的に表示されないようになっていきます）ので、実際の回答数はその半数～7 割程度になります。
6. いただいたご回答はすべて統計的に処理をし、その結果を学術的に分析の上、公開いたします。しかし、特定の大学名やその回答内容を公開することはございません。
7. **2013 年 1 月 25 日（金）**までにご回答をいただきますようお願い申し上げます。
8. ご不明な点などがございましたら、表面の問合せ先までご連絡願います。

[研究メンバー]

亀野 淳	北海道大学・高等教育推進機構・准教授（研究代表者）
稲永 由紀	筑波大学・大学研究センター・講師
牛山佳菜代	目白大学・社会学部・准教授
江藤智佐子	久留米大学・文学部・講師
大久保貴司	北海道江別高等学校・教諭
古閑 博美	嘉悦大学・ビジネス創造学部・教授
小林 純	札幌国際大学短期大学部・総合生活学科・講師
沢田 隆	札幌国際大学・スポーツ人間学部・教授
高橋 秀幸	北海道武蔵女子短期大学・教養学科・准教授
田崎 悦子	大阪教育大学・キャリア支援センター・特任准教授
立石 和子	北海道文教大学・人間科学部・准教授
椿 明美	札幌国際大学短期大学部・総合生活学科・教授
徳井美智代	北海道大学大学院・教育学研究科・博士後期課程
長尾 博暢	鳥取大学・大学教育支援機構・准教授
真鍋 和博	北九州市立大学・基盤教育センター・教授
吉本 圭一	九州大学大学院・人間環境学研究院・教授
和田 佳子	札幌大谷大学・社会学部・教授

インターンシップと就職の関連に関するアンケート調査票（大学学部）

「インターンシップ」については、一般的には「生徒・学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義され、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものは対象外とされていますが、本アンケート調査では、特に断りのない限り、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものも対象とし、「インターンシップ・実習」という用語を用います。

1. 「インターンシップ・実習」の実施体制と実施状況

はじめに、平成 23 年度の貴学部における「インターンシップ・実習」の実施体制や実施状況についておかがいします。

1.1 実施の有無

貴学部では、「インターンシップ・実習」を実施しましたか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 実施した →1.2 へ | 2 実施しなかった →3 へ |
|---------------|----------------|

1.2 実施の内容

実施した「インターンシップ・実習」の内容はどれですか。以下の選択肢の中から当てはまるものをすべて選択して下さい（複数回答可）。

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1 資格取得に関連する実習（教育実習、介護等体験、臨地実習、保育実習など） | |
| 2 資格取得とは関連のない実習（ボランティアなど） | |
| 3 1 及び 2 以外のインターンシップ | 4 その他（具体的に：_____） |

※「1 及び 2 以外のインターンシップ」を選択した者は 1.3 へ、選択しなかった者は 2. へ

1.3 実施主体（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

インターンシップの実施主体はどこですか。以下の選択肢の中から当てはまるものをすべて選択して下さい（複数回答可）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 全学的な実施 | 2 学部主導による実施 |
| 3 学科主導による実施 | 4 研究室・ゼミ主導による実施 |
| 5 その他（具体的に：_____） | |

1.4 参加学生数（平成 23 年度）（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

2011（平成 23）年度のインターンシップなどの就業体験について、貴学部における学年ごとの参加人数を入力して下さい。

() 人

1.5 目的（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

貴学部におけるインターンシップなどの就業体験の主な目的は、以下のどれに近いでしょうか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択してください。なお、複数のプログラムを実施している場合は、貴学部で代表的なものや最も参加人数の多いものでお答え下さい。

A：学生の職業観、就労意識を高めるもの B：専門的な能力を高めるもの

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 A に近い | 2 どちらかといえば A に近い |
| 3 どちらかといえば B に近い | 4 B に近い |

2. 「インターンシップ・実習」と就職の関係

次に、「インターンシップ・実習」と就職の関係についておうかがいします。最近3～5年程度の状況を、わかる範囲内でお答え下さい。

2.1 「インターンシップ・実習」参加学生の就職先の把握

貴学部では、「インターンシップ・実習」に参加した学生の就職先を把握していますか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| 1 すべて把握している | 2 ほぼ把握している | 3 少し把握している |
| 4 ほとんど把握していない | 5 全く把握していない | |

2.2 「インターンシップ・実習」先の企業等への採用の依頼の有無（大学側からの依頼）

貴学部では、「インターンシップ・実習」先の企業等に当該学生の採用を依頼したケースがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|------------|---------------|
| 1 ある →2.2.1へ | 2 ない →2.3へ | 3 わからない →2.3へ |
|--------------|------------|---------------|

2.2.1 就職を依頼した理由

就職を依頼した理由は何ですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 就職者数を増やすため | 2 当該学生がその実習先への就職を希望したから |
| 3 当該学生の就職先としてふさわしいと思ったから | |
| 4 当該学生の就職を卒業までに決定する必要があったから | |
| 5 その他（具体的に： | ） |

2.2.2 結果

就職を依頼した結果、当該企業等に採用されたことはありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 採用されたことがある | 2 採用されたことはない | 3 わからない |
|--------------|--------------|---------|

2.3 「インターンシップ・実習」先の企業等からの学生の就職の依頼の有無（企業側からの依頼）

貴学部では、「インターンシップ・実習」先の企業等から当該学生の就職を依頼されたことがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|------------|---------------|
| 1 ある →2.3.1へ | 2 ない →2.4へ | 3 わからない →2.4へ |
|--------------|------------|---------------|

2.3.1 対応と結果

企業から就職を依頼された際、どのように対応しましたか。また、対応の結果はどうなりましたか。以下の選択肢の中から当てはまるものを選択してください。複数人いる場合は該当するものをすべて選択して下さい（複数回答可）。

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 1 当該学生に伝えたところ、当該学生は応募し、採用された | |
| 2 当該学生に伝えたところ、当該学生は応募したが、採用されなかった | |
| 3 当該学生に伝えたが、当該学生は応募しなかった | |
| 4 当該学生に伝えたが、当該学生がどのように対応したかは不明である | |
| 5 当該学生には伝えなかった | 6 その他（具体的に： |

2.4 「インターンシップ・実習」先の企業等へ学生の就職の有無

貴学部では、「インターンシップ・実習」先の企業等に当該学生が結果として就職したことがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

1 ある	→2.4.1へ	2 ない	→3.へ	3 わからない	→3.へ
------	---------	------	------	---------	------

2.4.1 人数

最近3～5年程度で何人程度いますか。把握している範囲内で結構ですので、実数で入力してください。

() 人程度

3. 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方

次に、「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方をおうかがいします。現時点での個人的なご意見でも結構です。

3.1 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての基本的考え方

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについて、どのようにお考えですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

1 賛成	→3.1.1へ	2 どちらかといえば賛成	→3.1.1へ
3 どちらかといえば反対	→3.1.2へ	4 反対	→3.1.2へ
5 わからない	→3.2へ		

3.1.1 賛成の理由

賛成の理由は何ですか。以下の選択肢の中から特に強く思うものを3つまで選択して下さい。

1 企業等に学生の能力を把握してもらえるから
2 就職と結びつけることによって学生も真剣に「インターンシップ・実習」に取り組むようになるから
3 就職と結びつけることによって「インターンシップ・実習」に参加する学生が増えるから
4 採用と結びつけることによって企業も真剣に「インターンシップ・実習」に取り組むようになるから
5 採用と結びつけることによって「インターンシップ・実習」を実施する企業等が増えるから
6 学生がその企業の実情を知った上で、企業選びができるから
7 企業等が求めている能力、技能、資格を学生が知ることができるから
8 学生が早くから就職活動に取り組むことができるから
9 結果として就職者数が増えるから
10 その他（具体的に)

→3.2へ

3.1.2 反対の理由

反対の理由は何ですか。以下の選択肢の中から特に強く思うものを3つまで選択して下さい。

- 1 「インターンシップ・実習」では学生の能力を把握してもらえないか不安だから
- 2 就職活動の時期が早くなり、教育活動に支障を及ぼすから
- 3 学生の「インターンシップ・実習」の希望先が特定の企業等に集中してしまうから
- 4 企業からの「インターンシップ・実習」の依頼が多くなり、大学側での対応が困難になるから
- 5 他大学との関係で本学部の学生の就職が不利になるから
- 6 「インターンシップ・実習」に参加できない学生が就職において不利になるから
- 7 インターンシップや就職担当の部署や担当者の負担が大きくなってしまいうから
- 8 「インターンシップ・実習」はそもそも採用を目的として実施しているわけではないから
- 9 「インターンシップ・実習」先の決定を大学側で行なっているが、その責任が大きくなるから
- 10 その他(具体的に:)

→3.2へ

3.2 課題・条件

「インターンシップ・実習」を就職と結びつける場合、検討すべき課題としてどのようなものがあるとお考えですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものをすべて選択して下さい(複数回答可)。

- 1 「インターンシップ・実習」の期間 →3.2.1へ
- 2 「インターンシップ・実習」の実施時期 →3.2.2へ
- 3 「インターンシップ・実習」のプログラム内容
- 4 「インターンシップ・実習」のあり方を含めた教育体系
- 5 「インターンシップ・実習」参加学生に対する報酬の支払い
- 6 「インターンシップ・実習」参加学生の労働者としての位置付け
- 7 「インターンシップ・実習」後に本学部の学生を採用してくれるという前提条件
- 8 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する大学や学部内の制度・ルールの明確化
- 9 「インターンシップ・実習」の実施に際しての、受入企業側による学生の選考
- 10 「インターンシップ・実習」を実施するにあたっての行政から企業への金銭的な補助
- 11 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する日本全体の制度・ルールの明確化
- 12 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する行政の指針や指導
- 13 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する経済団体等の指針
- 14 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する企業との協力関係の見直し
- 15 就職活動の時期の見直し
- 16 大学の修業年限の柔軟化
- 17 その他(具体的に:)
- 18 検討すべき課題はない

3.2.1 適当な期間

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつける場合、どのくらいの期間が適当ですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 2週間程度 | 2 1ヶ月程度 | 3 2～3ヶ月程度 |
| 4 半年程度 | 5 1年程度 | |

3.2.2 適切な実施時期

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつける場合、実施時期はいつ頃が適切ですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 1年生 | 2 2年生 | 3 3年生になる春休み頃 |
| 4 3年生前半 | 5 3年生の夏休み頃 | 6 3年生の後半 |
| 7 4年生になる春休み頃 | 8 4年生前半 | 9 4年生の夏休み頃 |
| 10 4年生の後半 | 11 その他（具体的に： | ） |

4. 学生の就職状況（2012（平成24）年3月卒の学部生の数字を記載して下さい） 貴学部における2012（平成24）年3月卒の学部生の就職状況についておうかがいします。

4.1 学部生の卒業後の進路

貴学部の学部生の卒業後の進路について、以下の進路別にそれぞれ人数を入力して下さい。なお、以下の区分は学校基本調査と同じです。

進学者	(	) 人
就職者	(	) 人
臨床研修医（予定者を含む）	(	) 人
専修学校・外国の学校等入学者	(	) 人
一時的な仕事に就いた者	(	) 人
上記以外の者	(	) 人
不詳・死亡の者	(	) 人

4.2 就職活動の方法

貴学部での学生の就職活動は、自由応募によるものが多いですか。それとも大学や教員の推薦によるものが多いですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

A：学生の自由応募

B：大学・教員の推薦

- | | | |
|----------------|----------------|---------|
| 1 Aが多い | 2 どちらかといえばAが多い | |
| 3 どちらかといえばBが多い | 4 Bが多い | 5 わからない |

5. 属性

最後に、貴学部の属性についておうかがいします。

5.1 差し支えなければ、学校名と学部名をご入力ください。

a) 学校名 (	)
b) 学部名 (	)

5.2 貴大学について、以下の選択肢の中から該当するものを一つだけ選択して下さい。

1 国立大学	2 公立大学	3 私立大学
--------	--------	--------

5.3 貴学部の所在地（複数ある場合は主たるもの）を選択して下さい。

() 都・道・府・県

5.4 1 学年当たりの学生数（平均）をご入力ください。

() 人

5.5 学科系統について、以下の選択肢の中から一つだけ選択して下さい。なお、以下の選択肢は学校基本調査と同じ分類です。

1 人文科学	2 社会科学	3 理学	4 工学
5 農学	6 保健（医・歯学）	7 保健（医・歯学を除く）	8 商船
9 家政	10 教育	11 芸術	
12 その他（具体的に：		）	13 わからない

5.6 貴学部において、本アンケートに主に回答した方はどなたですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけ選択して下さい。

1	学部長
2	就職やインターンシップ・実習担当の教員
3	就職やインターンシップ・実習担当以外の教員
4	就職やインターンシップ・実習担当の職員
5	就職やインターンシップ・実習担当以外の職員
6	その他（具体的に：)

学生の就職やインターンシップ・実習についてご意見、ご感想等がありましたらご記入下さい。

--

ご回答をいただき、ありがとうございました。

インターンシップと就職の関連に関するアンケート調査票（大学全体）

「インターンシップ」については、一般的には「生徒・学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義され、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものは対象外とされていますが、本アンケート調査では、特に断りのない限り、教育実習、看護実習等資格取得を目的とするものも対象とし、「インターンシップ・実習」という用語を用います。

1. 「インターンシップ・実習」の実施体制と実施状況

はじめに、平成 23 年度の貴大学における「インターンシップ・実習」の実施体制や実施状況についておうかがいします。

1.1 実施の有無

貴大学では、「インターンシップ・実習」を実施しましたか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 実施した →1.2 へ | 2 実施しなかった →3 へ |
|---------------|----------------|

1.2 実施の内容

実施した「インターンシップ・実習」の内容はどれですか。以下の選択肢の中から当てはまるものをすべて選択して下さい（複数回答可）。

- | | |
|---------------------------------------|---------------|
| 1 資格取得に関連する実習（教育実習、介護等体験、臨地実習、保育実習など） | |
| 2 資格取得とは関連のない実習（ボランティアなど） | |
| 3 1及び2以外のインターンシップ | 4 その他(具体的に:) |

※「1 及び 2 以外のインターンシップ」を選択した者は 1.3 へ、選択しなかった者は 2. へ

1.3 実施主体（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

インターンシップの実施主体はどこですか。以下の選択肢の中から当てはまるものをすべて選択して下さい（複数回答可）

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 全学的な実施 | 2 学部主導による実施 |
| 3 学科主導による実施 | 4 研究室・ゼミ主導による実施 |
| 5 その他（具体的に:) | |

1.4 参加学生数(平成 23 年度)（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

2011（平成 23）年度のインターンシップなどの就業体験について、貴大学における学年ごとの参加人数を入力して下さい。

() 人

1.5 目的（ここでは、インターンシップに限定してお答え下さい）

貴大学におけるインターンシップなどの就業体験の主な目的は、以下のどれに近いでしょうか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択してください。なお、複数のプログラムを実施している場合は、貴大学で代表的なものや最も参加人数の多いものでお答え下さい。

A: 学生の職業観、就労意識を高めるもの B: 専門的な能力を高めるもの

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 Aに近い | 2 どちらかといえばAに近い |
| 3 どちらかといえばBに近い | 4 Bに近い |

2. 「インターンシップ・実習」と就職の関係

次に、「インターンシップ・実習」と就職の関係についておうかがいします。最近3～5年程度の状況を、わかる範囲内でお答え下さい。

2.1 「インターンシップ・実習」参加学生の就職先の把握

貴大学では、「インターンシップ・実習」に参加した学生の就職先を把握していますか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| 1 すべて把握している | 2 ほぼ把握している | 3 少し把握している |
| 4 ほとんど把握していない | 5 全く把握していない | |

2.2 「インターンシップ・実習」先の企業等への採用の依頼の有無（大学側からの依頼）

貴大学では、「インターンシップ・実習」先の企業等に当該学生の採用を依頼したケースがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|------------|---------------|
| 1 ある →2.2.1へ | 2 ない →2.3へ | 3 わからない →2.3へ |
|--------------|------------|---------------|

2.2.1 就職を依頼した理由

就職を依頼した理由は何ですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 就職者数を増やすため | 2 当該学生がその実習先への就職を希望したから |
| 3 当該学生の就職先としてふさわしいと思ったから | |
| 4 当該学生の就職を卒業までに決定する必要があったから | |
| 5 その他（具体的に： | ） |

2.2.2 結果

就職を依頼した結果、当該企業等に採用されたことはありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 採用されたことがある | 2 採用されたことはない | 3 わからない |
|--------------|--------------|---------|

2.3 「インターンシップ・実習」先の企業等からの学生の就職の依頼の有無（企業側からの依頼）

貴大学では、「インターンシップ・実習」先の企業等から当該学生の就職を依頼されたことがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

- | | | |
|--------------|------------|---------------|
| 1 ある →2.3.1へ | 2 ない →2.4へ | 3 わからない →2.4へ |
|--------------|------------|---------------|

2.3.1 対応と結果

企業から就職を依頼された際、どのように対応しましたか。また、対応の結果はどうなりましたか。以下の選択肢の中から当てはまるものを選択してください。複数人いる場合は該当するものをすべて選択して下さい（複数回答可）。

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 1 当該学生に伝えたところ、当該学生は応募し、採用された | |
| 2 当該学生に伝えたところ、当該学生は応募したが、採用されなかった | |
| 3 当該学生に伝えたが、当該学生は応募しなかった | |
| 4 当該学生に伝えたが、当該学生がどのように対応したかは不明である | |
| 5 当該学生には伝えなかった | 6 その他（具体的に： |
| | ） |

2.4 「インターンシップ・実習」先の企業等へ学生の就職の有無

貴大学では、「インターンシップ・実習」先の企業等に当該学生が結果として就職したことがありますか。以下の選択肢の中から当てはまるものを一つだけ選択して下さい。

1 ある	→2.4.1 へ	2 ない	→3. へ	3 わからない	→3. へ
------	----------	------	-------	---------	-------

2.4.1 人数

最近3～5年程度で何人程度いますか。把握している範囲内で結構ですので、実数で入力してください。

() 人程度

3. 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方

次に、「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての考え方を教えてください。現時点での個人的なご意見でも結構です。

3.1 「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについての基本的考え方

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつけることについて、どのようにお考えですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

1 賛成	→3.1.1 へ	2 どちらかといえば賛成	→3.1.1 へ
3 どちらかといえば反対	→3.1.2 へ	4 反対	→3.1.2 へ
5 わからない	→3.2 へ		

3.1.1 賛成の理由

賛成の理由は何ですか。以下の選択肢の中から特に強く思うものを3つまで選択して下さい。

1 企業等に学生の能力を把握してもらえから
2 就職と結びつけることによって学生も真剣に「インターンシップ・実習」に取り組むようになるから
3 就職と結びつけることによって「インターンシップ・実習」に参加する学生が増えるから
4 採用と結びつけることによって企業も真剣に「インターンシップ・実習」に取り組むようになるから
5 採用と結びつけることによって「インターンシップ・実習」を実施する企業等が増えるから
6 学生がその企業の実情を知った上で、企業選びができるから
7 企業等が求めている能力、技能、資格を学生が知ることができるから
8 学生が早くから就職活動に取り組むことができるから
9 結果として就職者数が増えるから
10 その他（具体的に)

→3.2 へ

3.1.2 反対の理由

反対の理由は何ですか。以下の選択肢の中から特に強く思うものを3つまで選択して下さい。

- 1 「インターンシップ・実習」では学生の能力を把握してもらえないか不安だから
- 2 就職活動の時期が早くなり、教育活動に支障を及ぼすから
- 3 学生の「インターンシップ・実習」の希望先が特定の企業等に集中してしまうから
- 4 企業からの「インターンシップ・実習」の依頼が多くなり、大学側での対応が困難になるから
- 5 他大学との関係で本学の学生の就職が不利になるから
- 6 「インターンシップ・実習」に参加できない学生が就職において不利になるから
- 7 インターンシップや就職担当の部署や担当者の負担が大きくなってしまいうから
- 8 「インターンシップ・実習」はそもそも採用を目的として実施しているわけではないから
- 9 「インターンシップ・実習」先の決定を大学側で行なっているが、その責任が大きくなるから
- 10 その他(具体的に:)

→3.2へ

3.2 課題・条件

「インターンシップ・実習」を就職と結びつける場合、検討すべき課題としてどのようなものがあるとお考えですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものをすべて選択して下さい(複数回答可)。

- 1 「インターンシップ・実習」の期間 →3.2.1へ
- 2 「インターンシップ・実習」の実施時期 →3.2.2へ
- 3 「インターンシップ・実習」のプログラム内容
- 4 「インターンシップ・実習」のあり方を含めた教育体系
- 5 「インターンシップ・実習」参加学生に対する報酬の支払い
- 6 「インターンシップ・実習」参加学生の労働者としての位置付け
- 7 「インターンシップ・実習」後に本学の学生を採用してくれるという前提条件
- 8 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する大学内の制度・ルール of 明確化
- 9 「インターンシップ・実習」の実施に際しての、受入企業側による学生の選考
- 10 「インターンシップ・実習」を実施するにあたっての行政から企業への金銭的な補助
- 11 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する日本全体の制度・ルール of 明確化
- 12 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する行政の指針や指導
- 13 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する経済団体等の指針
- 14 「インターンシップ・実習」や就職活動に関する企業との協力関係の見直し
- 15 就職活動の時期の見直し
- 16 大学の修業年限の柔軟化
- 17 その他(具体的に:)
- 18 検討すべき課題はない

3.2.1 適当な期間

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつける場合、どのくらいの期間が適当ですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものを一つだけ選択して下さい。

1 2週間程度	2 1ヶ月程度	3 2～3ヶ月程度
4 半年程度	5 1年程度	

3.2.2 適切な実施時期

「インターンシップ・実習」を学生の就職に結びつける場合、実施時期はいつ頃が適切ですか。以下の選択肢の中からあなたのお考えに最も近いものを一つだけ選択して下さい。

1 1年生	2 2年生	3 3年生になる春休み頃
4 3年生前半	5 3年生の夏休み頃	6 3年生の後半
7 4年生になる春休み頃	8 4年生前半	9 4年生の夏休み頃
10 4年生の後半	11 その他（具体的に：	）

4. 学生の就職状況（2012（平成24）年3月卒の学部生の数字を記載して下さい） 貴大学における2012（平成24）年3月卒の学部生の就職状況についておうかがいします。

4.1 学部生の卒業後の進路

貴大学の学部生の卒業後の進路について、以下の進路別にそれぞれ人数を入力して下さい。なお、以下の区分は学校基本調査と同じです。

進学者	() 人
就職者	() 人
臨床研修医（予定者を含む）	() 人
専修学校・外国の学校等入学者	() 人
一時的な仕事に就いた者	() 人
上記以外の者	() 人
不詳・死亡の者	() 人

4.2 就職活動の方法

貴大学での学生の就職活動は、自由応募によるものが多いですか。それとも大学や教員の推薦によるものが多いですか。以下の選択肢の中から最も近いものを一つだけ選択して下さい。

A：学生の自由応募

B：大学・教員の推薦

1 Aが多い	2 どちらかといえばAが多い	
3 どちらかといえばBが多い	4 Bが多い	5 わからない

5. 属性

最後に、貴大学の属性についておうかがいします。

5.1 差し支えなければ、学校名をご入力ください。

学校名 ()

5.2 貴大学について、以下の選択肢の中から該当するものを一つだけ選択して下さい。

1 国立大学 2 公立大学 3 私立大学

5.3 貴大学の所在地（複数ある場合は主たるもの）を選択して下さい。

() 都・道・府・県

5.4 1 学年当たりの学生数（平均）をご入力ください。

() 人

5.5 貴大学において、本アンケートに主に回答した方はどなたですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけ選択して下さい。

- 1 学長
- 2 就職やインターンシップ・実習担当の教員
- 3 就職やインターンシップ・実習担当以外の教員
- 4 就職やインターンシップ・実習担当の職員
- 5 就職やインターンシップ・実習担当以外の職員
- 6 その他（具体的に：)

学生の就職やインターンシップ・実習についてご意見、ご感想等がありましたらご記入下さい。

ご回答をいただき、ありがとうございました。

本報告書は科学研究費補助金『インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究』（基盤研究B、研究代表：亀野淳（北海道大学・高等教育推進機構・准教授）、課題番号 22330225）の研究成果の一部を取りまとめたものです

インターンシップなど産学連携教育を通じた
学校から社会への移行システムに関する研究

ーインターンシップと就職に関する大学アンケート 調査結果報告書 (Ver. 1) ー

発行機関 北海道大学 高等教育推進機構
(〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目)
発行責任者 北海道大学
高等教育推進機構 高等教育研究部
准教授 亀野 淳 (TEL : 011-706-6928)
発行 2016 年 8 月
